



## 令和4年度 小浜市立小浜小学校 学校評価書

～スクールプラン達成度～

### 1 はじめに

今年度、本校では、昨年度と同様に、質の高い集団を育てることを学校経営を貫く視点としてきた。

質の高い集団では、所属する個人の誰もが、それぞれの能力を発揮し、能力を伸ばし、可能性を広げていこうとする。くじけそうな個人がいたときには、互いが励まし、寄り添い、共に伸びようとする。

底流にあるのは、それぞれがかけがえのない存在だと認める意識である。このような意識を持つ集団で学ぶことでこそ、学力保障と成長保障が実現できる。

### 2 学校経営の重点 具体的取組と成果

【学校教育目標】	いきいき!! キラキラ!! みんな のびよう
【学校経営目標】	質の高い集団を育てる
めざす学校像	○児童が夢を持ち、よくなろうとがんばれる学校 ○教職員がキャリアアップを実感できる学校 ○保護者・地域から信頼され共に歩む学校
めざす子ども像	○よく考え、一生懸命学び合っのびる子 ○言葉の力を得、心を合わせてのびる子 ○心身共に健康で、郷土を愛する子
めざす教職員像	○児童一人一人を認め、可能性を広げ伸ばす教職員 ○職務を組織的に遂行できる教職員 ○保護者や地域の方々、同僚から信頼される教職員

#### (1) 豊かな心の育成

##### ◇自己有用感を育てる

( ) 内は前期比

数 値 目 標	児童アンケート結果
学校は楽しいと答える児童90%	91% (-1%)
そうじに静かに取り組んだと答える児童90%	91% (+2%)

- 学校生活は楽しいことばかりではないが、児童が好きなことを心に留め、児童理解に今後も努めていきたい。子どもは地域の宝である。  
前期をわずかに下回ったが、91%という高い結果については、コロナ禍ではあるが  
できることを積極的に取り組んできた成果としてとらえたい。
- そうじでは、「さしすせそうじ」の意識が高まり、数値も90%を超える結果となった。  
今後は、時間いっぱい取り組む掃除の時間の実現を目指したい。

◇人権感覚や思いやりの心を育てる ( )内は前期比

数 値 目 標	児童アンケート結果
他の人のためになることを進んでできたと答える児童90%	91% (+1%)
相手を傷つけないように言葉遣いに気をつけたと答える児童90%	90% (-1%)

- コロナ禍ではあるが、少しずつ交流活動の範囲が広がり、「人のためになることを進んで行動する」機会が増していったことが向上につながったと考える。各家庭での児童への心配りに感謝すると共に、担任も道德の授業や体験活動などを中心にしっかりと指導してくれていたと感じている。
- 自分の考えを発信する際に、どの言葉を選ぶかによって相手に与える印象は大きく変化する。人権週間では、「小浜小学校をふわふわ言葉でいっぱいにしよう」をテーマに言葉遣いへの気遣いに取組んだことから、言葉への意識が高まったと捉えている。また、教員は最大の教育環境であるということを肝に銘じ、教員の発する言葉にも自身で気をつけることのできるような、鋭い人権感覚を持った教師集団でありたい。

## (2) 確かな学力の育成

◇自分で課題を見つけ、解決する力を育成する。 ( )内は前期比

数 値 目 標	児童アンケート結果
「授業が分かる」と答える児童90%	95% (+4%)
「一人調べをしっかりとできる」と答える児童90%	91% (+3%)

- 学校における最も根本の設問である。前者は4%の改善・向上、後者においても3%の改善・向上が見られた。毎日の指導の積み重ねの結果としてとらえ、授業力アップの研究を継続していることの効果が少しずつ表れてきていると感じている。また、児童が主体的に取り組むことができるような一人調べにつながる授業の構成や課題設定の在り方に関しても、教材研究を重ね研修を積んでいきたい。

◇主体的に学び合う力を育てる ( )内は前期比

数 値 目 標	児童アンケート結果
授業で自分の考えを発表し、みんな調べにも参加できると答える児童80%	83% (+9%)
授業で分からないことを質問できると答える児童80%	85% (+2%)

- 前者は前期から9%と大きな改善が見られた。昨年度の後期と比較しても6%向上している。マスク着用の影響がある中、言葉を大切に作る取組みの成果として捉えてい

る。学年や学級によっては、差が見られる項目でもある。学級の児童に合った言葉かけや、発言を促す指名に関しても改善していきたい。

- ・質問できると答える児童は目標値に達しているが、一層の伸びが見られるとよい。

### (3) 信頼される学校づくり

◇信頼される学校へ ◇開かれた学校へ

( )内は前期比

数 値 目 標	保護者アンケート結果
子どもの小浜小学校での生活に満足していると答える保護者90%	97% (-1%)
通信等で学校の様子や必要な情報がよく分かると答える保護者90%	97% (±0%)
学校行事や校外活動では、いきいきと活動している様子が見られたと答える保護者90%	98% (±0%)

- ・どの項目も95%以上のたいへん高い評価を得ている。学校HPで学校の様子を発信し、学校生活や児童の様子を積極的に伝えることができた成果としてとらえている。今後も、効果的な情報発信の在り方について工夫・改善していきたい。今年度は、保護者参観を分散するなどして行うことができた。今後も、公開する方法や内容の制約がある中ではあるが、工夫して学校公開を行っていきたい。
- ・地域の施設である「旭座」を活用した教育活動は、今年度もコロナの影響で実施を見送った。来年度は、児童の発表の場として計画的に活用していきたい。
- ・今年度も、教育活動と地域の団体との連携を密に保つことに努めた。今後も、児童の興味関心をもとにしながら、地域の人材をゲストティーチャーとして招聘するなどして、福祉学習やふるさと学習を深める工夫した教育活動を展開していきたい。

## 3 課題

### ◆研究の継続・発展

「授業力アップ」研究発表会では、「児童に育みたい資質・能力」を明確にした授業づくりについて、小浜中学校と連携して一定の成果を発信することができた。来年度は、授業研究を中心に研修を積み重ね、3S学習とICTのより一層のベストミックスや小中連携の工夫を目指しながら、授業力アップを図っていきたい。

### ◆3S学習の充実

3S学習を通して、主体的な学習態度や考える力をつけていくのが小浜市教委の方針であり、本校でも研修を重ねている。しかし、世代交代等もあり理論の理解や実践経験が不足している教員も増えてきている。より一層研修を深めて、主体的な学びができる児童の育成に努めなければならない。

### ◆情報モラルの指導の充実

一人一台端末タブレットを用いて、各学年に応じた情報モラル教育を進めてきたが、具体的なカリキュラムを作成して取り組んで行く必要がある。

### ◆学級経営力、生徒指導力の向上

様々な特性を持った児童や様々な背景を持った児童がいる。そのことへの個別対応、

集団を育てる力量等、私たち教職員の人間力を高めないと対応できない状況になってきている。個別事案にチームで対応する体制の維持とその質の向上に努力したい。

また、本校特有のこととして、指定学校変更による通学児童の多さを挙げることができる。様々な家庭環境を背景に持つ児童の存在もある。これらのことについても、配慮すべき内容について共通理解を進めていきたい。

#### 4 次年度に向けての具体的方策

◇主体的学習態度や考える力をつけるための有効な学習形態の一つの3S学習を、「授業力アップ」研究指定を契機とし、一層効果的なものにするよう努力していきたい。

また、タブレット端末を有効活用した「ドリルパーク」を計画的・効果的に実施することにより、知識の確実な習得を図りたい。

◇校内支援委員会の計画的開催と随時開催を継続し、支援の必要な児童に対する理解を一層進め、支援の方策について共通理解したことを基に、チーム対応をしていきたい。特別支援教育コーディネータの存在は大きい。保護者との信頼関係構築には、特コの働きが欠かせない。特コが効果的に機能するようなチーム体制をつくりたい。また、必要に応じて外部関係機関の力を借り、個々の児童の成長にとって、よりよい環境を実現するべく努力を続けていきたい。